



五中だより

令和8年4月7日
小平市立小平第五中学校
校長 相澤 史彦
小平市小川町1-798

令和8年度を迎えて

校長 相澤 史彦

桜の花も盛りを過ぎ、新緑が目眩しい季節となりました。春の穏やかな日差しに包まれ、本日より令和8年度が始まります。このたび、小平第二中学校から着任し、小平第五中学校の校長を務めることになりました、相澤史彦（あいざわ ふみひこ）と申します。前任の伊藤克行校長先生の後を受け、生徒が心身ともに健やかに成長し、さらに充実した学校生活を送ることができるよう、教職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、本校の学校経営の基本は、日本国憲法・教育基本法・学校教育法に基づき、学習指導要領を遵守するとともに、小平市教育振興基本計画が掲げる基本理念の具現化を目指すものです。開校当初からの教育目標である「考える人間」「たくましい人間」「思いやりのある人間」は、生徒が社会の中で自立し、他者と協働して生きていくために欠かせない柱です。今年度は特に、3点目の「思いやりのある人間」を重点に据え、教育活動を進めてまいります。

3月中旬にはじめて本校を訪れ、校舎の佇まいや周辺環境をゆっくりと見て回りました。その後伊藤校長先生から引き継ぎを受け、まず驚いたのは、生徒数と教職員数の多さです。今年度は2・3年生が各6学級、1年生は7学級、通常学級だけで19学級、特別支援学級を含めると計666名の生徒が在籍します。少子化が進み、全国的には学校の統廃合が進む中で、五中は市内8校の中でも2番目、東京都全体で見ても有数の「大規模校」であることがわかりました。

生徒数が多いことは、学校行事や部活動、委員会活動など、教育活動全体の活気につながります。多様な仲間と出会い、協力し合い、時には意見を交わしながら成長していく姿を、今年度多く見ることができるだろうと、大きな期待を抱いています。

一方で、大規模校であるがゆえに、事故やトラブルの件数が増える可能性もあります。生徒一人一人が育ってきた環境や価値観、個性はそれぞれ異なります。だからこそ、互いを尊重し、認め合い、協力しながら生活することが大切です。私は、生徒・教職員に、相手の気持ちを想像しながら言葉や行動を選ぶこと、そして「声かけ」の大切さを伝えていきたいと考えています。普段から、お互いに挨拶や声かけを交わし合う温かい雰囲気にも包まれた学校であってほしい。困っている人や悩んでいる人がいたら、そっと寄り添える生徒であってほしいと願っています。そして同時に、自分自身を大切に、自分の長所や適性を伸ばす努力を続けてほしいと思います。「思いやり」とは数値で測ることができない、形のないものです。しかし、確かに“感じる”ことができる力です。学校という集団生活の中でこそ、その力は育まれます。

五中には、多様で活気ある生徒、熱意ある教職員、そして温かく学校を支えてくださる地域・保護者の皆様が多くいると伺っています。今後、五中についてよく知り、この恵まれた環境の中で、生徒が安心して学び、挑戦し、成長できる学校づくりを進めてまいります。引き続き、ご支援とご協力をお願い申し上げます。

コミュニティ・スクール(CS)について

本校は令和7年度に学校経営協議会を設置し、コミュニティ・スクール（以下CS）として1年間が経ちました。今年度は2年目に入ります。学校と地域が「どのような子どもを育てるのか」「何を実現していくのか」という目標やビジョンを共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」づくりが着実に前進しています。下記は今年度のCS委員の皆様です。昨年度からの変更はありません。

青木 雅代	様	前小平市教育委員会 委員（CS委員長）
山田 裕	様	小平市教育委員会 教育アドバイザー（前白梅学園清修中学校 校長）
城戸 健一郎	様	こどもサポート株式会社 代表取締役
福田 順子	様	東京都立小平西高等学校 校長
二瓶 功次	様	小川一丁目児童館 館長
張 明子	様	地域教育コーディネーター
山田 猛	様	東京造形大学 教授
上原 学	様	東京都スクールカウンセラー
菅野 祥夫	様	こだごサポーター サポートリーダー
木村 一史		小平第五中学校 副校長

計 10 名

家庭環境も教職員の働き方も、時代とともに大きく変化しています。共働き家庭の増加、育児への男性参加の進展など、学校を取り巻く状況は多様化しています。また、地域には「学校に関わりたい」「子どもたちのために力になりたい」と考えてくださる方々が多くいらっしゃいます。五中校区には大学も多く、学生の力を教育活動に生かす可能性も広がっています。学校が必要とするボランティア活動を保護者だけに限定せず、CSを通じて地域の人材を取り込み、機能させることができれば、生徒にとっても、保護者にとっても、そして教職員にとっても大きな支えとなります。以下に、昨年度の主な取り組みをご紹介します。

① こだごサポーターとの連携

本校PTAは令和4年度から2年間かけて在り方を見直し、従来のPTA制度を廃止しました。現在は、学校がボランティアを必要とする際に、都合のつく保護者に協力をお願いする「こだごサポーター」制度として運営しています。昨年度は、運動会のテント搬送、受付業務、合唱コンクールの運営補助、給食試食会、リサイクル学用品販売など、多岐にわたる活動を行っていただきました。

② 検定試験の運営

英検・漢検・数検などの検定試験は教育的効果が高い一方、教職員の勤務時間外の実施となるため運営が難しい状況がありました。現在はCSが主体となり、学校がサポートする形で実施しています。令和7年度からは年3回から年2回の実施に変更し、より安定した運営体制を整えています。

③ 生徒・家庭支援

学校に足が向きにくい生徒や、悩みを抱える保護者が増えています。春休み CS委員には専門的な知見を持つ方もおり、学校とは異なる立場からの支援が可能です。これまでに、個別学習教室、悩みを抱える保護者の会（白梅学園で実施）、水曜日の部活動待機生徒の自習室開放などを行ってきました。また、こども食堂の紹介や学校外での居場所づくりにも取り組んでいます。

《令和8年度生徒数》 4月6日現在

	1学年			2学年			3学年		
	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計
1組	15	17	32	18	17	35	18	18	36
2組	15	16	31	18	17	35	19	17	36
3組	14	17	31	18	17	35	18	18	36
4組	15	17	32	18	16	34	19	18	37
5組	14	17	31	18	16	34	19	17	36
6組	14	17	31	17	17	34	18	18	36
7組	15	16	31						
8組	5	2	7	6	1	7	6	3	9
合計	107	119	226	113	101	214	117	109	226